



リソースナースのご紹介 看護のプロフェッショナルたち

当院には、専門的な知識と技術を持ち、看護の質向上をリードするリソースナースが在籍しています。リソースナースとは、特定の分野において高度な専門性をもつ看護師のことを指し、それぞれの専門領域で活躍しています。現在、当院には24名のリソースナースが在籍しており、以下のような分野のスペシャリストが揃っています。

- 特定行為研修修了者：4名
- 緩和ケア認定看護師：3名
- 糖尿病看護認定看護師：1名
- 診療看護師：3名
- がん化学療法看護認定看護師：1名
- 摂食嚥下障害看護認定看護師：1名
- 感染管理認定看護師：3名
- がん放射線療法看護認定看護師：1名
- 脳卒中看護認定看護師：1名
- 認知症看護認定看護師：3名
- 皮膚・排泄ケア認定看護師：2名
- クリティカルケア認定看護師：1名



リソースナースの役割とは？

当院は「心臓病・脳卒中・がん」の拠点病院としての役割を担っており、患者さんにより質の高い看護を提供するため、私たちリソースナースは日々研鑽を積んでいます。病棟・外来・手術室など、それぞれの専門性が発揮できる現場に所属しながら、活動日を設けて組織横断的に活動し、院内全体の看護の質向上に取り組んでいます。現場のスタッフへの助言・指導だけでなく、患者さんやご家族の不安に寄り添い、安心して医療を受けられるよう支

援することも重要な役割のひとつです。

院内看護師との連携強化と、リソースナース自身の成長を目指した「活動報告会」

毎年、リソースナースによる「活動報告会」を開催しています。この報告会では、リソースナース同士が活動内容を共有し合い、それぞれの専門的知識や判断を基に、意見交換を行う場になっています。専門職としての成長や新たな視点の獲得にもつながる貴重な機会となっています。また、今年度より院内の看護師全員が参加できるようオープン参加型にすることを計

画しました。リソースナースの活動を広く周知し、看護師間の連携を深めることに加え、新たな人材育成につなげていきたいと思っております。

地域との連携を含めたチーム医療をつないでいくリソースナースを目指して

今後は、リソースナースの活動を院外や地域の皆さまにも広く知っていただき、地域貢献へとつなげていくことを目指しています。その一環として、当院のホームページや公式Instagramでも情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください。

一次脳卒中センター（PSC）認定の背景

去る2016年12月に日本脳卒中学会と日本循環器学会が「脳卒中と循環器病克服5カ年計画ストップCVD(脳心血管病)健康長寿を達成するために」を発表致しました。このなかで脳卒中センター認定の提唱が行われたことから、日本脳卒中学会では、地域医療機関や救急隊からの要請に対して24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が可及的速やかにrt-PA静注療法を含む診療を開始できる事などを要件として、「一次脳卒中センター（PSC：primary stroke center）」の認定を開始しております。

PSCコア施設としての当院の役割

PSCの中でも、血栓回収療法に対応できない医療機関からの患者さんも常時受け入れ、PSCの中心となることで地域の脳卒中急性期診療の中核を担う施設として「PSCコア施設」の委嘱も開始されました(図1)。「PSCコア施設」は、将来的には地域における疾患管理の調整まで担う事が期待されています。当院脳卒中センターは、関連ご施設の皆様のご協力や院内スタッフの尽力により、「PSCコア施設」に認定されております。

脳卒中相談窓口の設置と地域連携の展望

PSCコア施設には、上記の急性期脳卒中診療に加えて「脳卒中相談窓口」の設置が義務づけられております。「脳卒中相談窓口」は、(1)再発、合併症、重症化予防のための疾患管理プログラムの策定、情報提供、かかりつけ医との連携支援、(2)関係部署と連携した患者さん及びご家族の相談支援と情報提供、(3)経済的、心理的、社会的な困り事に関する相談と解決、を行います。対応するスタッフは、日本脳卒中学会の講習を受講し、「脳卒中療養相談士」として認定された医療専門職です。当院でも脳卒中専門医をはじめ、脳卒中看護認定看護師を含む看護師、メディカルソーシャルワーカー(MSW)、リハビリテーションス

タッフなど、複数のスタッフが脳卒中療養相談士の資格を取得し、他職種連携のうえ運営しております。現状では当院で治療を受けた患者さんや外来通院中の患者さんが対象となりますが、将来的には、鹿児島大学病院が担っていただいている脳卒中・心臓病総合支援センターや、ほかのPSCならびにPSCコア施設とも連携のうえ、県全体の患者さん、ご家族のお役に立てるような体制づくりを進めて参ります(図2)。あわせて、地域の総合的な脳卒中センターとしてお役に立てるよう、「専門性の高い医療提供体制の充実」「再発・重症化の予防」「脳卒中の研究推進」「適切な情報提供」にも努めてまいりますので、引き続きよろしくご願ひ申し上げます。

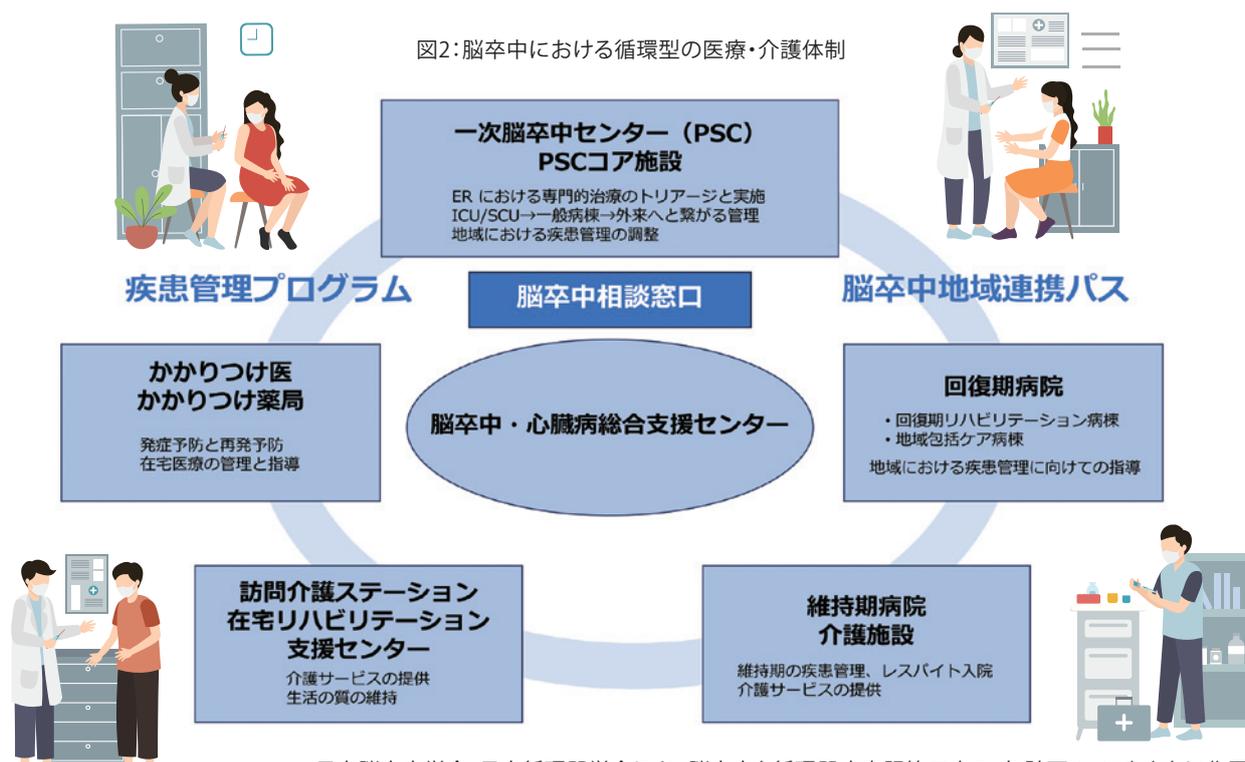
図1:PSCコア施設の認定基準

【認定基準】

一次脳卒中センター(PSC)コアは下記の5項目をみとすことが求められる

- 1 一次脳卒中センター(PSC)に認定されていること
- 2 日本脳神経血管内治療学会の脳血管内治療専門医と3学会認定の血栓回収療法実施医が合計して常勤3名以上であること
- 3 血栓回収治療実績が年間12例以上あること
- 4 自施設において24H/7Dで血栓回収治療に対応可能であること
- 5 脳卒中相談窓口を設置すること

日本脳卒中学会



日本脳卒中学会・日本循環器学会ほか. 脳卒中と循環器病克服第二次5カ年計画.2021をもとに作図

外科・消化器外科の体制と専門性

当科は2019年7月以降、徐々に医員構成に変化があり、現在は鹿児島大学消化器外科(旧第一外科)の関連病院として、4名の外科医が在籍しています。医師は以下の専門資格を取得しており、質の高い外科治療を提供しています。

- 日本外科学会専門医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医

また、当院は日本外科学会および日本消化器外科学会の修練施設として認定されており、大学病院と連携しながら、胃がん・大腸がん・肝臓がんなど腹部の悪性疾患すべてに対応可能です。

チーム医療による全人的ながん治療

がん診療ガイドラインに基づき、以下の専門職と連携しながら、全人的に患者さまをサポートいたします。消化器内科・放射線科・臨床病理・緩和ケアチーム・NST(栄養サポートチーム)外来化学療法室・がん支援相談室・認定看護師・臨床心理士合同カンファレンスでの症例検討会やカンサーボードを通して、

外科治療・化学療法・放射線療法について各専門医が忌憚のない意見を交わし、最適な治療方針を決定しています。適応のある症例は腹腔鏡下手術を行っています。今後はロボット支援手術の導入も検討中です。

腹腔鏡下手術と緊急対応体制

当科では、安全性、根治性を第1としながら、患者さまの希望や疾患の進行度、既往歴を考慮し、機能温存を重視した腹腔鏡下手術を積極的に導入し、胃切除・胃全摘・小腸切除・結腸切除(右側・横行・左側・S状)・直腸切除・直腸切断・括約筋間直腸切除術に対応しております。

内視鏡手術にはOLYMPUS社製「VISERA ELITE 4K」システムを導入し、より精緻な手術が可能です。また、急性虫垂炎、鼠径・大腿・閉鎖孔ヘルニア、腸管癒着障害、胆石症などの良性疾患にも鏡視下手術を基本として対応します。急性胆嚢・胆管炎、胃十二指腸潰



瘍穿孔、大腸穿孔、虚血性腸疾患、上腸間膜動脈閉塞などの救急症例には、迅速な緊急手術を行っています。一時期は3人体制の時期もあり、急患をなかなか受け入れられない時期もありましたが、現在は4人体制となり、急患対応も可能です。この数年で構成人員の交代があり、地域連携が不十分であったかと思われま。地域に根差し、より良き診療に研鑽してまいりますので、ご紹介、ご相談はお気軽にご連絡ください。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

診療科紹介 泌尿器科

当科では、2020年3月までは常勤医3名体制で診療を行っていましたが、同年4月より2名となり、2022年4月からは常勤医1名での診療を継続しております。体制変更に伴い、近隣医療機関の皆様にはご不便をおかけしていることと存じます。ご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

対応可能な疾患と治療方針

当科では、尿路感染症、尿路結石、前立腺肥大症や神経因性膀胱、過活動膀胱等の畜尿排尿障害、ならびに前立腺癌、腎癌、尿路上皮癌(腎盂癌・尿管癌・膀胱癌)などの悪性腫瘍を中心に診療を行っております。膀胱癌や前立腺肥大症、尿路結石に対する経尿道的手術、検査は実施しておりますが、複数医師を要する手術には対応しておらず、必要に応じて適切な医療機関へご紹介しております。

2012年に前立腺癌に対するロボット支援手術が保険適応となって以降、泌尿器科手術、特に悪性腫瘍に関してはロボット支援手術が

主流となりました。以前の開腹手術や腹腔鏡手術に比べ患者様への身体的負担が減っており今後も更なる適応拡大が見込まれています。当院は手術支援ロボット導入には至っておりませんが、診断および当院で可能な治療を行い、ロボット支援手術が必要な際には適切な医療機関へご紹介させて頂いております。手術前もしくは手術後に化学療法が必要な場合にも対応しております。

チーム医療による包括的な支援体制

当科では看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーを含めた多職種でのチーム医療を実践しております。ご紹介やご相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

泌尿器科実績		項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
手術	腎・尿管・副腎	副腎	3	7	5	0	0	0
		腎盂・尿管癌	12	7	4	0	0	0
		腎癌	12	4	9	0	0	0
	前立腺	腹腔鏡下腎摘出術	5	3	7	0	0	0
		腹腔鏡下腎部分切除術	22	26	36	0	0	0
		前立腺癌	9	13	5	2	4	1
		前立腺肥大症	2	1	2	0	0	0
	膀胱	膀胱癌	75	44	47	40	41	27
		経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)	2	1	0	0	0	0
	精巣	精巣腫瘍	2	1	0	0	0	0
高位精巣摘除術		12	9	12	3	2	6	
尿路結石	経尿道的尿路結石除去術(腎盂・尿管)	3	5	4	2	3	2	
	経尿道的尿路結石除去術(膀胱)	232	235	243	183	174	156	
検査・処置	尿管ステント留置術	11	15	14	7	4	5	
	腎臓造設術	1	2	1	5	2	1	
	膀胱造設術	118	116	131	75	65	66	

薬剤部は薬のスペシャリストとして入院前から入院後、そして外来通院中も患者さんの投薬について安心安全を守るため業務を行っています。スタッフは薬剤師17名、助手7名の24名が在籍しています。今回はポリファーマシー対策についてご紹介させていただきます。

ポリファーマシーとは？

ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いだけでなく、それに関連して副作用(薬物有害事象のリスク増加)や、飲み忘れや飲み間違い(服薬過誤)等の問題につながる状態のことをいいます。特に高齢の方では、複数の基礎疾患を治療している場合も多く、複数の医療機関を受診することにより服用する薬剤も増えていくためポリファーマシーになりやすくなります。

当院では一部診療科でポリファーマシー対策をはじめました。

何剤からポリファーマシーとするかについて厳密な定義はなく、患者の病態、生活、環境により適正処方も変化します。当院では2024年度診療報酬改定で算定要件が変更されたのを契機にポリファーマシー対策をはじめました。薬剤師が持参薬を鑑別した内容と初回面談時に患者の状態を確認、介

入が必要と判断した場合、医師や看護師等と多職種連携による薬剤の総合的な評価を実施し、処方内容を変更します。薬剤師は患者に処方変更に伴う注意点の説明とポリファーマシーに関する啓発をします。その後は処方変更後の影響について多職種で確

認します。まだ一部の診療科にての実施となっておりますが、その都度課題を解決しつつ診療科の拡大を目指しております。地域の医療機関・薬局の先生方におかれましては、ポリファーマシー対策にご理解とご協力をいただけますと幸いです。

● ポリファーマシー（多剤使用）による治療のリスク ●

薬は病気の治療や予防のために必要とされますが、必要以上に沢山の薬を使うことで体調を崩す原因となる場合があります。ちょうど良い種類・量を調整することはリスクを減らすことにつながります。

1) 薬による副作用が起こりやすくなる

- ・ 個々の薬には必ず副作用があるので種類が増える事でリスクが増えること。
(代謝・排泄臓器だけでなく、目標の臓器・組織以外の全身の臓器・組織以外にも薬は達するため)
- ・ 飲み合わせにより副作用が出易くなる場合があること。

2) 種類や数が多いことで用法・用量の遵守や管理が難しくなる

どの薬を飲んだか分からなくなったり、薬の飲み間違いが起こりやすくなること。

3) それぞれの薬を使う意味や副作用症状などを覚えきれなくなる

これらのことで、安全に使用することがし難くなるリスクが増えること。

今回内服が変更または中止になったお薬

(変更 ・ 中止)

薬剤名：



2024年度診療報酬改定で算定要件が変更 (厚生労働省資料)

現行	改定後
<p>【薬剤総合評価調整加算】 100点 (退院時)</p> <p>(1) (中略)</p> <p>イ 患者の病状、副作用、療養上の問題点の有無を評価するために、医師、薬剤師及び看護師等の多職種によるカンファレンスを実施し、薬剤の総合的な評価を行い、適切な用量への変更、副作用の被疑薬の中止及びより有効性・安全性の高い代替薬への変更等の処方内容の変更を行う。</p> <p>ウ 当該カンファレンスにおいて、処方の内容を変更する際の留意事項を多職種で共有した上で、患者に対して処方変更に伴う注意点を説明する。</p> <p>エ 処方変更による病状の悪化や新たな副作用の有無について、多職種で確認し、必要に応じて、再度カンファレンスにおいて総合的に評価を行う。</p>	<p>【薬剤総合評価調整加算】 100点 (退院時)</p> <p>(1) (中略)</p> <p>イ 患者の病状、副作用、療養上の問題点の有無を評価するために、医師、薬剤師及び看護師等の多職種による連携の下で、薬剤の総合的な評価を行い、適切な用量への変更、副作用の被疑薬の中止及びより有効性・安全性の高い代替薬への変更等の処方内容の変更を行う。</p> <p>ウ 処方内容を変更する際の留意事項を多職種で共有した上で、患者に対して処方変更に伴う注意点を説明する。</p> <p>エ 処方変更による病状の悪化や新たな副作用の有無について、多職種で確認し、必要に応じて、再評価を行う。</p> <p>オ イ、ウ、エを実施するに当たっては、ポリファーマシー対策に係るカンファレンスを実施する他、病棟等における日常的な薬物療法の総合的評価及び情報共有ができる機会を活用して、多職種が連携して実施すること。</p> <p>カ (7)に規定するガイドライン等を参考にして、ポリファーマシー対策に関する手順書を作成し、保険医療機関内に周知し活用すること。</p>

※取組の際の参考資料

- 「高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)」(厚生労働省)
- 「高齢者の医薬品適正使用の指針(各論編(療養環境別))」(厚生労働省)
- 日本老年医学会の関連ガイドライン(高齢者の安全な薬物療法ガイドライン)
- 「[病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方](#)」(厚生労働省)
- 「[ポリファーマシー対策の進め方](#)」(日本病院薬剤師会)



カンファレンスの実施に限らず、他職種による薬物療法の総合的評価および情報共有・連携ができる機会を活用して必要な薬剤調整等ができるよう要件が見直された。

第7回 鹿児島医療センター地域医療連携懇談会を開催しました



令和7年5月20日、第7回鹿児島医療センター地域医療連携懇談会を久しぶりに開催することができました。多数の医療関係者の皆様にご出席いただき、心より御礼申し上げます。また、日頃より当院の運営および地域医療連携にご理解とご協力を賜っておりますこと、重ねて感謝申し上げます。本懇談会は、鹿児島の公的病院としては初の試みで、2012年に第1回を開催いたしました。その後、コロナ禍や諸般の事情により一時中断しておりましたが、本年4月に西尾善彦が大学から新院長に就任したことを機に、再開の運びとなりました。懇談会は、西尾院長による開会の挨拶に

より幕を開け、引き続き講演会を実施しました。講演会では以下の内容が発表されました。

- 西尾院長による「鹿児島医療センターの現状報告」
- 当センターが重点的に取り組む三大疾病(がん・脳卒中・心疾患)に関する報告
 1. 脳卒中センター長 松岡秀樹「脳血管の急性期治療について」
 2. がん相談支援センター長 原口浩一「がん診療について」
 3. 循環器内科 園田幸一郎「当院におけるSHD治療への取り組み」

その後、鹿児島県医師会副会長桶谷薫先生の乾杯のご発声を皮切りに、意見交換会を開催いたしました。はじめの30分間は着席形式での歓談、その後は自由にテーブルを移動していただき、より顔の見える交流が行われました。講演時間を簡潔にまとめたことで、意見交換の時間を十分に確保できました。最後に、副院長松崎勉による閉会の挨拶をもちまして、本会を締めくくりました。出席者の皆様からは「非常に有意義な会だった」「ぜひ次年度も開催してほしい」とのお言葉を頂戴し、大変励みになっております。今後も、広報誌の発行、講演会の実施、病院訪問などを通じて、地域の皆様との連携を一層深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



TOPIC 2



新任医師のご紹介

皮膚腫瘍科

島田 邦彦



● 2025年6月から皮膚腫瘍科レジデントとして赴任しました島田邦彦と申します。初期臨床研修で2か月間ではありますが、皮膚腫瘍科にて研修させていただき、そのときの経験が元となり皮膚科専攻を決めました。そんな思い出のある病院で勤務させていただき、非常にうれしく思います。患者様に寄り添い、私自身も多く学びや経験を通して日々成長できるように努めて参ります。至らぬ点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉科

竹元 尊徳



● 2025年6月より耳鼻咽喉科に赴任しました竹元尊徳です。鹿児島大学出身で、鹿児島大学病院で初期研修を受けました。また、たすき掛けて鹿児島医療センターでも、たいへんお世話になりました。さらに、現在医療センターで勤務されている先生のおかげには、大学で大変お世話になりました先生もいらっしゃいます。周囲の環境や仕様の变化に戸惑うことが多数ではありますが、少しでも早く慣れていきたいと思っております。なにとぞよろしくお願いいたします。

心臓血管外科

寺園 和哉



● 2025年7月より心臓血管外科へ赴任した寺園和哉です。当院への勤務は4年ぶりとなります。鹿児島県の循環器治療の中心である当院でまた働けることを非常にうれしく思っております。患者様が満足のいく手術・治療を提供できるよう日々努力してまいります。よろしくお願いいたします。



研修医の声

臨床研修医

四元 鉄



●この度、令和7年4月1日付けで鹿児島医療センター臨床研修医1年目として所属することになりました。研修期間が開始してから約1ヶ月が経ちましたが、病院のシステムや環境に慣れるのに精いっぱいであり、なかなか自分自身が思い描くような患者さんへの治療介入ができていないのが現状です。4月から2ヶ月間脳血管内科で研修を積ませていただくことになっておりますが、部長を始め指導医の先生方には日々お世話になっており、心から感謝申し上げます。現時点での自分自身の課題としては、自己研鑽により学んだことを臨床の場に活かしていないことであると考えております。今後に関してですが、救急初期対応での患者さんへの問診・診察やカンファレンスなどの発表をより積極的に行うことで臨床能力を高めていけるよう努力しようと思っております。ご迷惑をおかけする場面も多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。

臨床研修医

木原 彩貴



●このたび、初期臨床研修医として勤務いたします。木原彩貴と申します。研修を始めて1ヶ月程度が経ちますが、現場での学びの多さ、学生の頃とは違う責任の重さを日々実感しています。救急の場でのいそがしさ、実臨床の場での個々の患者様に合わせた治療内容の選択など、毎日多くのことを学ばせていただいています。臨床における採血などの手技の面でも至らぬ点が多い状態でしたが、ご指導くださる先生方やスタッフの方々のおかげで少しずつ上達しております。医療センターの方々はお忙しい中でも丁寧に指導くださり、私自身も毎日1歩ずつでも成長できるよう頑張っております。まだ未熟な点ばかりですが、患者様一人ひとりに真摯に向き合い、学びを深めてまいります。お忙しい中、ご指導くださる先生方や温かく支えてくださるコメディカルスタッフの皆様には心より感謝申し上げます。今後もご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

井上 雄大



●今年度4月より鹿児島医療センターにて初期研修をさせていただくことになりました。鹿児島大学出身で研修医1年目の井上雄大と申します。自身が大変興味のある循環器疾患に関してより深く学び、経験できるとお聞きしたため、鹿児島医療センターで研修することにいたしました。研修医となり1ヶ月が経ちましたが、学生から研修医となったことで患者様や疾患に対しての見方が大きく異なるため、多くの気づきと実技経験が積めることを大変嬉しく感じています。それとともに、自身を取り巻く環境が大きく変化したことや、社会人としてまた医師としての責務など、学生時代であり経験することがなかった事象に出会い、どう対処するのが最善なのか分からず苦悩しております。医師としては大変未熟ではありますが、社会人としての自覚を持ち、より正確な知識・技術を身に付け患者様から信頼される医師になれるよう日々精進してまいりますので、今後とも何卒宜しくお願致します。

臨床研修医

三橋 白竜



●今年度4月より、鹿児島医療センターにて初期研修をさせていただいております。三橋と申します。出身は東京で、大学6年間は福岡で過ごしましたが、ご縁があり、初期研修は鹿児島でお世話になりました。学生時代は、趣味の音楽に没頭した6年間で、現在、非常に興味のある耳鼻咽喉科も、音に関連する仕事をしたいと思ったためです。進みたい道が明確化されるほど、自分に必要な知識や手技を身につけたいという思いが強くなりました。現在は、医療従事者として必要な知識や視点を多くの方々の力を借りながら日々学ばせていただいております。現在は、第一循環器内科でお世話になっており、カルテの使い方から病棟管理まで幅広く教えていただいております。入職する際は、仕事に対する不安でいっぱいだったのですが、先生方や病棟の看護師さん、他医療従事者の方々から丁寧に指導して下さるお陰で、心エコーや心電図を臨床の場で分析するなど、医師として少しずつではありますができることが増えてきました。この2年間、ロジックに則って、できる手技や知識を増やしていきたいと思っておりますので、講習会などには積極的に参加させていただきます。ぜひ内視鏡やエコーなどの、手技講習会なども開催して下さると幸いです。2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

満永 桃子



●この度、新たに臨床研修医として勤務させていただいております。満永と申します。研修を始めて1ヶ月が経ち、日々多くの学びと刺激に溢れた時間を過ごしています。4月は麻酔科での研修を経験し、術中の全身管理や急変時の対応など、命に直結する場面での判断力や冷静さの重要性を実感するとともに、チーム医療の素晴らしさを学びました。現在は外科を研修中で、より専門性の高い知識や技術を吸収しながら、術前・術中・術後と患者さんの一連の経過に深く関われる点に、外科ならではの大きなやりがいを感じております。日々の診療の中で、鹿児島医療センターの皆様方から多くのご指導をいただき、少しずつ医師としての自覚と責任を深めております。このように恵まれた環境で医師としての第一歩を踏み出したことに、心から感謝しております。まだまだ未熟者ではございますが、一日一日を大切に、真摯に学び、患者さんに信頼される医師を目指して精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

原 和樺菜



●4月から鹿児島医療センターに来ました、研修医1年目の原と申します。研修を始めてから1ヶ月以上が経ち、ようやく病院の雰囲気にも慣れてきました。働き始めてみて、今まで勉強してきたことやこれから学ぶことが、患者さんの治療に直接つながることへのやりがいを感じております。また、患者さんを治療することだけではなく、患者さん自身の考え、ご家族のサポートの有無や思い、社会的背景など幅広い視点で関わる必要があり、全ての面でサポートするには多職種の連携が重要であると感じました。1ヶ月経ってできるようになったことがある分、自分の手技に自信が持てない面、知識や実力不足な面もたくさんあります。2年間という研修期間で自分ができることを少しでも増やせるよう、医療スタッフのみなさんのお力添えをいただきながら学んで行きたいと思っております。精一杯頑張りますので、ご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

南立 悠斗



● はじめまして。4月より鹿児島医療センターで初期研修をさせて頂いております南立悠斗と申します。生まれ育った鹿児島で医師として働けることができ、大変うれしく思います。4月から2か月間、第二循環器内科で研修をさせて頂いております。病棟業務や救急外来対応など不慣れなことが多く、自分の未熟さを実感する日々でしたが、上級医の先生方だけでなくコメディカルの方々など多くの方が優しく丁寧に指導してくださって、少しずつ成長をすることが出来ています。学生時代では出来なかったことをたくさん経験させて頂くことができ、同期や先生方・スタッフの方にも恵まれて鹿児島医療センターで研修をすることが出来て本当に良かったと実感しております。まだまだご迷惑をかけることが多くあると思いますが、一日でも早くお役に立てるように努力していきますのでご指導のほどよろしくお願い致します。

臨床研修医

吉田 真悠子



● 4月より臨床研修医として勤務させて頂いております、吉田真悠子と申します。鹿児島大学出身です。学生の時、病院見学をさせて頂いた際に、病院全体の雰囲気や先生方の熱心な御指導に大変感銘を受けたため、鹿児島医療センターでの研修をとっても楽しみにしていました。現在、第二循環器内科で研修させて頂いております。多くの手技を経験させて頂いたり、主治医として患者さんの対応にあたりたりと非常に充実した研修ができています。まだまだ未熟であり、スタッフの方々にご迷惑をおかけしてばかりですが、手厚いサポートのおかげで、日々色々なことを勉強させて頂いております。これからも多くのことを経験し、成長できるように精進しますので、今後とも御指導の程よろしくお願い致します。

臨床研修医

今辻 幸宏



● 鹿児島医療センターで研修医として働き始めて、早くも1ヶ月が経過しました。私は現在、脳血管内科で研修を行っており、日々多くの患者さんと向き合う中で、臨床の現場の厳しさとやりがいを実感しています。カルテの記載や急患対応、カテーテル治療など、多彩な仕事を通して、医師として必要な知識や技術を少しずつ身につけています。指導医の先生方はとても優しく、教育熱心で、毎日が学びの連続です。こうした温かい環境の中で研修を受けられることに、心から感謝しています。これからも初心を忘れず、将来一人前の医師として患者さんに信頼される存在になれるよう、努力を重ねてまいります。まだまだ半人前ではございますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

臨床研修医

土居 怜央奈



● このたび鹿児島医療センターで初期臨床研修医として勤務させて頂くこととなりました、土居怜央奈と申します。医師としての第一歩をこの病院で踏み出せることを大変ありがたく感じております。研修が始まってからの毎日は、覚えることや慣れないことも多く緊張の連続ですが、医師としての責任の重さを日々実感しながら、多くの学びを得ています。診療の現場では、座学では得られない多くの学びがあり、医師のみならず、多くのスタッフの皆様にご指導いただき、チーム医療の大切さを実感しています。医学的知識や技術はもちろんのこと、患者さま一人一人に寄り添う姿勢を学び、信頼される医師を目指して努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

臨床研修医

田端 謙成



● はじめまして。今年度より鹿児島医療センターで2年間の初期臨床研修をさせて頂くことになりました田端謙成と申します。出身は熊本県で鹿児島大学を卒業しました。研修が始まって間もない今、毎日が新しい経験の連続で、電子カルテの操作から、基本的な手技、急患対応など一つ一つの業務を覚えることに必死な日々を送っています。また、学生の頃とは異なり、実際の診療の現場では、医師としての責任と緊張感を強く感じています。その一方で、上級医の先生方や医療スタッフの皆さんからの温かく丁寧なご指導が励みになっており、少しずつですが自信も芽生えてきているように感じます。これからも日々前向きに取り組み、学び続ける姿勢を大切にしたいと思っています。一日でも早く一人前の医師として信頼していただけるよう、努力を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

臨床研修医

吉元 裕翔



● お世話になっております。4月より鹿児島医療センターで研修させて頂いております、吉元裕翔(ひろと)と申します。地元の鹿児島で医師として働くことを大変嬉しく思います。4.5月は第二循環器内科にて研修をさせて頂いております。カテーテル治療や救急外来にも積極的に参加させて頂き、毎日が楽しくあつという間です。まだまだ未熟ですが、上級医や指導医の先生、コメディカルのスタッフの皆様を支えられ、たくさんのフィードバックをいただけるおかげで、少しずつ成長できているのではないかと思います。このような恵まれた環境で2年間研修できることにほんとうに感謝の気持ちでいっぱいです。無駄にしないよう日々精進いたしますので、今後ともよろしくお願い致します。

臨床研修医

戸川 隼斗



● 今年度より鹿児島医療センターで初期臨床研修をさせて頂いております、戸川隼斗(とがわはやと)と申します。4月から第1循環器内科で研修を開始し、ルート確保やカルテ記載、心臓カテーテル治療、心エコーなど、日々多くの学びを得ています。実際の医療現場では、教科書では得られない貴重な経験が多く、患者様一人ひとりに向き合うことの大切さを実感しております。未熟な点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、常に謙虚な姿勢を忘れず、医療スタッフの皆様との連携を大切にしながら、地域医療に貢献できる医師を目指して努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

臨床研修医

松迫 茉里奈



● この春から鹿児島医療センターで初期研修をさせて頂いております、松迫と申します。研修が始まってまだ日は浅いですが、これまで机上で学んできたことは異なる新たな学びや、臨床現場で求められる実践力の重みを日々痛感しています。慣れないことばかりで、自分の力不足に悔しさを感じる毎日ですが、先生方やスタッフの皆様のご指導に支えられ、一つでもできることを増やそうと努力しているところです。今後一つひとつの経験を大切にし、患者さんに信頼される医師を目指して励んでまいります。まだまだ未熟ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

外来診療担当表2025年9月

2025年9月1日現在

診療科		曜日	月	火	水	木	金
血液内科	初診		大塚 真紀	原口 浩一	山本 花	大塚 真紀	大渡 五月
	再診		大塚 真紀	大塚 真紀	大渡 五月 山本 花	大塚 真紀	大渡 五月
	移植後フォローアップ外来※		血液内科医師及び看護師（完全予約制）				
糖尿病・内分泌内科			郡山 暢之	児島 奈弥 和田 華菜子	郡山 暢之	西尾 善彦 平原 涼太郎	郡山 暢之 肥満症外来（午後） 第2金曜 郡山 暢之 第2金曜以外 児島 奈弥
糖尿病療養指導外来※			糖尿病看護認定看護師				
消化器内科	消化管・胆膵		福森 光 藤本 敦	福森 光	福森 光 藤本 敦	「処置日」	福森 光
	肝臓		櫻井 一宏	森内 昭博	櫻井 一宏	森内 昭博	櫻井 一宏
腎臓内科			古庄 正英 外山 裕貴 (CKD連携外来)	腹膜透析外来	「手術日」	古庄 正英 倉八 孝行 (CKD連携外来)	外山 裕貴（第2金曜以外） 正英（第2金曜のみ）
第一循環器内科			片岡 哲郎 茶園 秀人 有村 俊博	片岡 哲郎 高崎 州亜	茶園 秀人 今村 春一 中島 均	福嶋 愛	片岡 哲郎 高崎 州亜 向井 麟太郎
第二循環器内科 *弁膜症外来 火曜日			園田 幸一郎 中別府 麻里	東 健作 平峯 聖久 後藤 淳一	園田 正浩	石川 裕輔 伊集院 駿 田中 康博	園田 正浩 馬場 善政
不整脈治療科			塗木 徳人	塗木 徳人	萩 榮鴻	二宮 雄一	塗木 徳人
脳・血管内科			松岡 秀樹 濱田 祐樹	松岡 秀樹 浜田 恭輔 岩元 佳奈	松岡 秀樹 佐藤 健朗	松岡 秀樹 濱田 祐樹	松岡 秀樹 佐藤 健朗 川畑 裕太郎
小児科 *心臓健診 月曜日～金曜日			田中 裕治 長濱 潤 二宮 由美子 石川 香織	田中 裕治 長濱 潤 二宮 由美子	田中 裕治 長濱 潤	田中 裕治 長濱 潤 二宮 由美子 石川 香織	田中 裕治 二宮 由美子 吉永 正夫
放射線科	放射線治療		西森 宏雄		西森 宏雄	西森 宏雄	西森 宏雄
	画像診断 CT・MRI・RI		井手上 淳一 鮎川 卓朗	井手上 淳一 鮎川 卓朗	鮎川 卓朗	井手上 淳一 鮎川 卓朗	井手上 淳一 鮎川 卓朗
心臓血管外科			向原 公介		峠 幸志		永富 脩二 寺園 和哉 (隔週で交代制)
外科・消化器外科				塗木 健介 崎田 浩徳 佐竹 霧一		塗木 健介 崎田 浩徳 佐竹 霧一	
脳神経外科 *水曜日は、手術日のため外来診療休診			橋渡 貴昭	橋渡 貴昭	「手術日」	橋渡 貴昭	井上 恵理
婦人科 *完全予約制			神尾 真樹 永田 真子 鬼ヶ原 幹久 東 拓郎	神尾 真樹 永田 真子 鬼ヶ原 幹久 東 拓郎	「手術日」	神尾 真樹 永田 真子 鬼ヶ原 幹久 東 拓郎	神尾 真樹 永田 真子 鬼ヶ原 幹久 東 拓郎
耳鼻咽喉科 *完全紹介制（初めの方は医師の紹介が必要です）			松崎 勉 西元 謙吾	「手術日」	松崎 勉 西元 謙吾	「手術日」	松崎 勉 西元 謙吾
泌尿器科 *火曜日は、手術日のため外来診療休診			川平 秀一郎	「手術日」	川平 秀一郎	川平 秀一郎	川平 秀一郎
皮膚腫瘍科			松下 茂人 青木 恵美 戸澤 貴久 島田 邦彦	「手術日」	松下 茂人 青木 恵美 岩田 昌史（第2,4週） 戸澤 貴久（第1,3,5週）	「手術日」	松下 茂人 青木 恵美 岩田 昌史 生駒 宗祐
眼科 ※ 外来診療のみ			中尾 久美子 午後 休診	中尾 久美子	午前 休診 中尾 久美子	中尾 久美子	中尾 久美子
歯科口腔外科			中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子
専門外来	医師		緩和ケア外来 松崎 勉		腹水外来 櫻井 一宏		がんゲノム医療相談外来 鈴木 紳介
	看護師		フットケア外来 糖尿病看護認定看護師		リンパ浮腫外来 リンパ浮腫指導技術者	ストーマケア外来 皮膚・排泄ケア認定看護師	
セカンドオピニオン外来※			循環器疾患、心臓血管疾患、脳血管疾患、がん、悪性新生物、血液疾患				
マルチモビリティ外来※			第2循環器内科	第1循環器内科	脳血管内科	腎臓内科	消化器内科
『健康診断』 受付 午前8:45～10:00			第1循環器内科	第2循環器内科			脳・血管内科

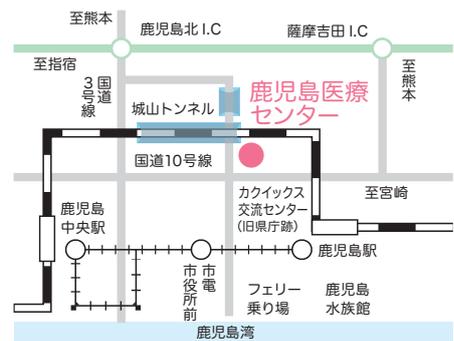
- 受付時間/午前8時45分から11時00分まで ●診療時間/午前8時45分から午後5時15分まで※ただし、急患についてはこの限りではありません。
- 休診日/土・日曜日・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）※移植後フォローアップ外来・糖尿病療養指導外来・専門外来・セカンドオピニオン外来・マルチモビリティ外来については完全予約制となっております。事前に電話確認をお願い致します。※不在予定医師につきましてはお電話またはホームページにてご確認ください。

患者さんのご紹介について

- STEP ①** 予約センター（専用TEL:0120-680-704）へご連絡ください。
患者さま氏名・生年月日・ご連絡先・希望診療科をお尋ねいたします。
- STEP ②** 希望医・希望日時に合わせて紹介先診療科の新患空予約枠をお取り下さい。
- STEP ③** 後程、情報提供書のFAX（専用FAX:0120-334-476）をお送り下さい。

※ただし、一部の診療科（血液内科、不整脈治療科、眼科）は除きます。 ※検査などの関係で、予約日の変更依頼を当院から直接患者様へご連絡する場合がありますこと、内容によって院内の他診療科へ予約変更させていただく場合がありますことをご了承ください。 ※緊急性がある場合には、各診療科医師へ直接お電話ください。

予約センター 専用TEL 0120・680・704 専用FAX 0120・334・476
受付時間：月～金9:00～17:00（祝日・12月29日～1月3日を除く）



独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 TEL:099(223)1151・FAX:099(226)9246 ホームページ <https://kagomc.hosp.go.jp>

